

古民家 移築再生事業



町では平成25年から古民家移築再生整備事業を行っています。町内に残る農家古民家の構法やしつらえ、間取りを建築当時の姿に近づけて移築し、交流施設として活用できるように整備します。地域の活性化と町の歴史や文化を継承しながら、関係人口の創出を図る事業です。

これまで旧畑島邸と旧山口邸の2棟の整備が終わり、今年度から3棟目となる旧幅田邸の整備が始まりました。

まちづくり推進課復興推進グループ ☎27-3179



朝日地区にたたずむ幅田邸
(昭和初期撮影)



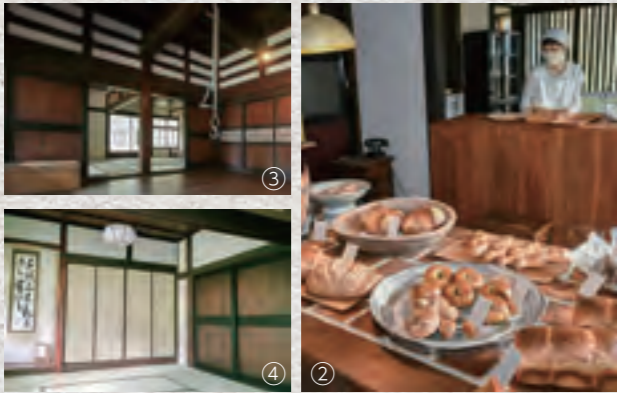
畑島邸と畑島家
(昭和初期撮影)

開拓期の伝統家屋の現状
北海道開拓期、明治期から昭和初期にかけて、多くの移住者が入植しました。道内には日本各地の伝統的な様式の民家が多く点在していたと思われます。しかし、北海道特有の厳しい気候条件による建物の老朽化や戦後日本の高度成長などを背景に、古民家の多くが近代的な住宅への建替えのため解体・撤去されたことにより、現在道内には、一部地域にごく少数が確認されるのみとなっています。

厚真町の古民家
厚真町では、保存・再生に取り組む古民家の定義として、「明治・大正・昭和初期(戦前)に建築された居住用の建築物で、伝統的建築様式を持った建築物」としています。

平成21年、同23年に外観的に古民家の可能性が高い54軒を現地調査し、明治から大正期にかけて建築された古民家が16軒ほど確認されました。しかし、平成30年胆振東部地震でその多くが失われてしまいました。

Before



①移築再生した旧畑島邸の外観②自家製の天然酵母のパンが並ぶ店内③囲炉裏を備えた広間④立派な仏間を備えた座敷

移築再生古民家

01 旧畑島邸

旧畑島邸は、平成26年に朝日地区から豊沢地区のフォーラムビレッジに移築再生されました。明治43年に村外に転出する村民から当時の畑島家当主が譲り受けた住宅で、推定で築110年を超える建築物です。当時名人とつたわれ町内で多くの建物を手掛けた大工の森井平造氏が建築に携わりました。

〳 此方を経営する高田真衣さん〳

自家製の天然酵母菌にとって、温度変化が少ない古民家は、理想的な環境です。室内にはゆっくりとした時間が流れています。近所の幼児が、初めてお使いで来てくれた時は嬉しかったですね。人も建物も大切に、「厚真っていいね」って言われるように励みます。



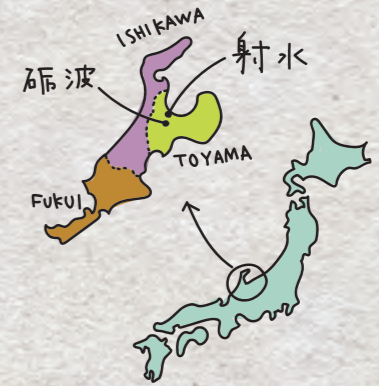
なぜ、厚真町に多く現存するのでしょうか？
厚真町に古民家が現存する要因として、小雪寒冷かつ高温多湿の期間が短いなど、木材の品質保存に適した気候が挙げられます。また、積雪量が多い北陸地方の伝統的構法で建築されていることから建物が頑健な造りであること、更には開拓者の子孫が先祖の労苦に対する尊敬の念と使命感から、個人の責任と努力により残し続けてきたことが理由として考えられます。

古民家の建築様式

厚真町にある古民家の建築様式は、現在の北陸地方のものも多く富山県の「越中造民家」、福井県の「越前型民家」、石川県の「加賀型・能登型民家」が確認されています。特に「越中造民家」のうち、砺波・射水地方に多く見られる「杵の内」という架構構造を持った民家が多く確認されています。

杵の内とは

「杵の内」とは対の大黒柱とウシバリという太い梁を、金物を一切使用せずに組み上げた伝統的な建築方法です。住居の本体部分の骨格を形成する「杵の内」は極めて頑強な造りとなっています。また、ウシバリと交差する梁の架け方として、通常では十字、井桁ですが、厚真町ではキ型で組み立てられているものが多くみられることも特徴の一つと言えるでしょう。



キ型に組み込まれた杵の内



建物の説明をする札幌市立大学の羽深久夫名誉教授

札幌市立大学とのパートナーシップを構築
厚真町古民家の調査は、平成20～21年に軽井沢地区での民間古民家の再生工事をきっかけに、札幌市立大学の協力を得て行われました。その後も古民家再生推進協議会の委員として移築再生に係る助言や現地調査など、さまざまな協力をいただいています。札幌市立大学とは、古民家の保存、再生、活用において、欠かすことのできないパートナーシップを構築しています。

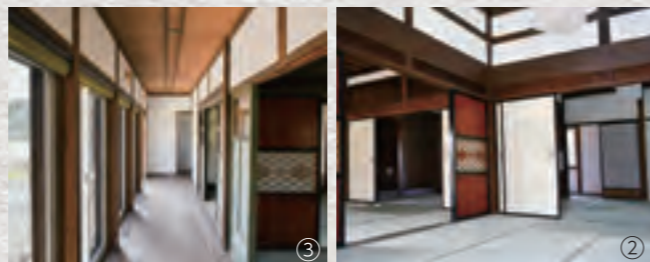
移築再生古民家

02 旧山口邸

旧山口邸は、令和3年に鹿沼地区から豊沢地区のフォーラムビレッジに移築再生されました。明治41年に当時の山口家当主が建築した住宅で、築113年の建築物です。現在では蓄積量が極めて少ない貴重な木材であり日本では古くから病魔をはらい、寿命を延ばす「延寿」の木として親しまれてきた「エンジュ」が使用されている貴重な遺構です。土間部分を飲食店、住居部分の一部を民泊施設として夏にオープンする予定です。

〳 開業準備に励む河合志穂さん〳

古民家が、人を呼ぶ誘い水になればと思っています。民泊は、家族連れも楽しめる古い貸し切り民泊のイメージです。厚真町は、海や山などの豊かな自然に加え、魅力的な人に会えるまち。古民家を拠点にして、関係人口を増やせるよう、がんばります。



①移築再生した旧山口邸の外観②広間③縁側

移築再生古民家

03 旧幅田邸



①解体前の幅田邸の広間にある枠の内②住居とともに移築再生が検討されている納屋③北海道では珍しい玄関屋根にある金属製の鬼瓦



旧幅田邸は、令和4年度に朝日地区から豊沢地区の環境保全林内に移築再生される予定です。明治34年ごろから3年をかけて当時の幅田家当主が建築した住宅で、築約120年の建築物です。

朝日地区の旧幅田邸は、移築のため解体工事を行っています。令和5年3月の移築再生を予定しており、完成後は飲食・宿泊施設として活用されます。古民家の内部も一般公開となる予定です。



旧山口邸

河合志穂さんが夏の開業に向けた準備を進めていました。天井には歴史を感じさせる梁があり、土間にはテーブルやいすが置かれ、新しい建物の中にも和の情緒が漂っていました。



旧幅田邸

解体作業が進むなか、参加者は古民家の架構を目の当たりにしながら担当者の説明に耳を傾け、貴重な建造物を写真に収めました。

町は5月21日、古民家見学会を開きました。事前に応募があった町内外の33人が参加し、豊沢地区に移築再生した旧山口邸と、朝日地区で移築再生のために解体が行われている旧幅田邸の2カ所を見学しました。

古民家見学会

